



こんにちは!

私があなただの地区の
山村地域在住職員です!

豊田市は、山村地域に暮らしながら市職員として働く制度を導入しています。足助、旭、稲武、小原、下山の支所で2021年4月から働く山村地域在住職員5人を毎回ご紹介してきました。今回は最終回です。

第5回 下山支所

筒井 貞裕 さん
つづい さだひろ



前職はJICA海外協力隊員で、カリブの島国ジャマイカ国にコミュニティ開発職として赴任していました。業務としては、セントマリー教区でスモールビジネス支援やリサイクル普及活動などを行っていました。教区で唯一の日本人として暮らす中で、互いの信頼無くして何事も成り立たないこと、自分がいかに周りの方々に助けられているかを教わりました。

Uターン就職となり、今は市職員として地域振興担当、具体的に観光や自治区支援業務に従事しております。市民の皆さまのお役に立てるように頑張りたいと思っています。良い時も悪い時もありますが、「中庸」にて一歩ずつ進んでいく所存です。皆さま、御指導と御鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

プロフィール

配属の下山地区出身です。まもなく30歳です。趣味はサウナと猫です。サウナで汗をかくのが好きなのですが、棚田の草刈りをして汗をかけば実利もあって一石二鳥だと気づきました。飼猫は1歳のサバ猫(♀)です。

イベント情報

▶セミナー山を持つ方ら知っておきたいこと5選

「ある日突然山主になった」「山林を相続したけれど、どうしたらいいのかわからない」、そんな不安を少しでもお持ちのあなた、山林所有についてスッキリしておきませんか?山林所有にかかる民法上の義務・責任から、山林の管理方法まで、事例を交えながら専門家が丁寧に説明します。

●日時 2021年11月27日(土) ①10時~12時②14時~16時

①②いずれかの時間でお申し込みください。

●場所 とよたエコフルタウン(豊田市元城町3-17)駐車場あり

●参加対象 豊田市に山林をお持ちの方、持つかもしいない方

●定員 15名(申込先着順)

●参加費 無料

●申込 11月1日(月)から申込開始。右記QRコード、またはURLから申込フォームにログインし、必要事項をご記入ください。※申込にはユーザー登録が必要です。



<https://www.toyota-mirajuku.com/events/373>

●内容 山主の義務・責任等について、豊田市の森づくりと山主の関わり

●講師 たきなみあきら 滝浪 彰氏(司法書士)、豊田市森林課

●問合せ 電話0565-61-1618 豊田市森林課

▶おばらマルシェ TAKE OUT

四季桜公園にて、小原地区の魅力を堪能できる「おばらマルシェ」が開催されます。小原の特産物を中心においしいグルメ大集合!小原で育ったまぼろしの米「ミネアサヒ」、新鮮とれたて小原の野菜、小原の食材を使った優しい焼き菓子スイーツ、特Aミネアサヒを使った炭火で焼くふくら五平餅等小原ならではのアート、クラフト店も出展します。是非、お越しください♪

●日時 2021年11月13日(土) 10時~15時

●場所 四季桜公園(豊田市小原町地内)

●問合せ おばらマルシェ実行委員会

電話 090-9932-5105 (安藤)

メールアドレス obaramarche@gmail.com

●備考 出店情報などは小原観光協会ホームページ、Facebook「おばちゅう卒」で随時お知らせ。「おばらマルシェ」で検索もできます。当日は四季桜まつり(場所:小原ふれあい公園)も同時開催されます。

詳しい情報、他のイベント情報は

[おいでん・さんそんセンターホームページ](#)

[『イベント情報』をチェック!](#)

PICK UP

市内で福祉事業を展開する株式会社スマイリング主催の市民会議

アイデアを持ち寄り煮込む?スープ会議

松平・下山
まつざいら・しもやま



コロナ禍で色々な集まりが停止しました。直に話せば伝え合える微細な想いも、リモートだと伝わりにくいじれったさを感じていた時。アイデアを持ち寄って、自分たちのまちのことを考えていこう、という連続ワークショップのお知らせが入りました。おおよそ公的なところが主催することの多かったまちづくりの企画を、なんと『スープ会議』というおしゃれなネーミングで、民間の事業所がやるというのです。スープ会議、スープタウン構想、聞いただけで暖かな場のイメージが湧いてきてワクワクしました。

主催は「NPO法人おんぶにだっこ」と松平・下山地区をはじめ市内で福祉事業を展開する株式会社スマイリングです。

「NPO法人おんぶにだっこ」は、高齢者の活躍をサポートし、高齢者が若者を支えるという逆転発想で地域づくりを応援するスマイリングのプロジェクトから生まれたN

PO法人です。高齢者が子ども食堂の料理を提供する「ピストロ・スマイリング」の運営のほか、地域において人と人とのつながりをデザインする「社会的処方研究所あいち」の取り組みも行っています。

株式会社スマイリングは、2013年松平地区に「デイサービススマイリング」を開業。現在は高齢者デイサービス事業所5か所、就労継続支援事業B型事業所2か所、企業先導型保育園事業、訪問看護事業、ソーシャルクリエイティブ事業などを運営しています。就労継続支援事業B型としてスタートした「スマイリングキッチンLABO」、「久遠チョコレート豊田店」が話題です。

スープが冷めない距離で暮らそう

松平にあるデイサービススマイリングの隣地を活用し複合施設を作る計画があり、それを地域住民と共に考えたい



とスープ会議は計画されました。そのため、今回は松平・下山地区の住民や所縁のある方たちが中心となりました。

スープの冷めないくらいの人と人の距離感や、スープのような暖かさのある誰もが安心して暮らせる「スープなまち」。その要素をたくさん含んだ、住民たちの想いが詰まった新たな施設「スープタウン」構想。そしてスープ会議とは、スープタウン構想を実現するために、当事者たちがいるいろいろなアイデアを持ち寄って、グツグツコトコト煮込みながら話合う会議のことです。

第1回スープ会議

7月20日(火)。会場である松平地区中垣内町の「デイサービススマイリング」に37名が集まりました。

松平・下山の在住・在勤の方、移住定住に関わる人、中には高校生の姿も見えました。平日の夜ということで子育て中の親が参加しづらかったのは残念ですが、思った以上に多様な年齢層が集まりました。

スープ会議にちなんで、会議のしつらえもすべてスープ仕様。参加者の首にかけるネームプレート、テーブルに置かれたクロス、アイデアを書くカードはスープの具材模様、それを入れる小さなスープカップなど。テーブルに置かれた愉快的仕掛けによって、今回のワークショップが堅苦しいものではなく、気軽に参加できる場なのだと伝わってきます。

それぞれテーブルに分かれて座ると、ファシリテーターのウッチーこと、街づくりアドバイザーの内海慎一さんが進行していきます。呼んでほしい名前と最近ハマっているものなどお互いに紹介した後、「自分の思い描くスープなまち(理想のまち)」のイメージを出し合いました。具材カー

ドにアイデアを書きこみ、他の人のスープカップに入れて混ぜ合わせていきます。

参加者の方たちが考えたスープなまちは「世代に関係なく話せ、支え合える」、「やりたいことができる」、「誰でも参加できる交流の場がある」、「自分のできることで輝く場がある」、「自分のことが好きになれる」など、たくさんの意見が出ました。

途中のブレイクタイムは「スープブレイク」。スマイリングで作られた野菜が使用されていて、とても美味しいスープでした。

第2回スープ会議

8月17日(火)。自分語りから、つながりが生まれた回。

まずは前回のふりかえりから。第1回で参加者から出された意見をまとめたものを見ながら、改めてそれぞれが大事だと思うものを選び、考えを整理する作業をしました。

このワークで感じたのは、一人ひとりの意見をとても大切に扱ってもらった感覚。アンケートとして意見を出して終わりではなく、他の人の意見に自分の意見を重ねて具体像に近づけていく過程。まさに「スープを煮込む」作業です。

そして、参加者が普段取り組んでいることをシェアするワーク。「コトコト(少しづつじっくり取り組んでいること)」、「グツグツ(熱量をもって取り組んでいること)」。小さな一歩も大きなアクションも、同じ土俵に上げて語り合いました。丁寧な生活を大切にしたい人、仕事の幅を広げたい人、イベントをやりたい人、事業化したい人など。お互いを知ることで新しいアイデアや繋がりが広がっていく回となりました。

第3回スープ会議

緊急事態宣言を受けて延期され10月12日(火)。スマイリングの考えるスープタウン構想案が紹介されました。『食』



を中心とした様々なニーズから、現在ある福祉事業所を含め、より入り口を広げてたくさんの方たちと繋がれるシステムへ。その広さに驚きました。いよいよ具体的な話に入りつつあり、「スープなまち」で何がしたいか、デイサービススマイリング横の空き地を使った「スープタウン」で何がやりたいか、というアイデア出し。松平・下山在住、在勤の人が中心となって参加しているので、「自分たちのまち」としての構想を練っていく過程となりました。

高齢者のシェアハウス、災害に強い施設作り、地元産の農産物の調理方法を高齢者に教えてもらう場、足湯、冷凍おにぎり屋、集まれる場所の構築、レンタルスペース、ワーキングスペース、人と交流できるイベント、直通バス、防災食を楽しく、田舎暮らし体験、酒米作り、ショットバーな

ど。どんどんアイデアが出てきました。

次回の12月で最終回。この回のテーマは「スープタウンを創るために自分に何ができる?」。いよいよ大詰めです。

まちづくりのワークショップが、本当にポップに楽しく開催されることが驚きで、毎回参加するのが楽しみです。今回は松平・下山地区対象でしたが、色々な地域で応用できるように思いました。スープ会議はアイデアの持ち帰り自由です。どんな展開を見せるのか楽しみで仕方ありません。(小黒敦子)



report

豊田市の小学生を対象にした山村地域での自然体験



セカンドスクール2021夏フリー版開催

豊田市の小学生を対象に、セカンドスクール2021夏フリー版の3つのプログラムが8月に開催されました。

8月1日(日)「山っこくらぶ」

豊田市加塩町での川遊びをメインに開催され、20人が参加しました。スタッフは地域に住む複数の家族で構成され、サポーターには大学生に加え、過去に参加した小学生が成長しリーダーとして参加するという循環が生まれています。「また会おうね!」と来年の再会を口にするやりとりには、繰り返し開催されてきたプログラムだからこそ生まれる繋がりが感じられました。

8月3日(火)「いなぶの山と川で思いっきり楽しもう!山のこどもになる!」

19人が参加しました。稲武地区のトウモロコシ畑での収穫体験から始まり、焼きトウモロコシ、アマゴ掴み、川遊びの後は獲ったアマゴとあゆの塩焼きで川魚を堪能、スイカ割り、地元の旅館岡田屋さんでのお風呂など、日帰りでも稲武の方々がしっかりと受け入れの準備をされたことが感じられ、充実した1日を過ごしていました。

8月3日(火)～5日(木)「遊んで遊んで遊び尽くせ!ちんちゃん亭セカンドスクール3days」

旭地区の農家民宿を舞台に2泊3日で開催され、11人が参加しました。8月下旬に予定していた2回目は緊急事態宣言のため開催中止となりました。びしょ濡れになって遊び、太鼓を叩いて遊び、思い思い自由に遊び、人権や本当に危険なこと以外は大人は何も言わない。子どもたちがありのままの姿で過ごせる時間が大切にされていました。

また来年3月には春のフリー版が開催される予定です。ぜひご参加ください。(田中あつこ)



山っこくらぶ



いなぶの山と川で思いっきり楽しもう!



ちんちゃん亭